

日本原子力学会 第 152 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2025 年 10 月 1 日（水）13:30～16:30
2. 場 所：東京大学工学部会議室+Zoom（ハイブリッド） ※：Zoom 参加
3. 出席者：大場委員長*、沖田副委員長、神谷幹事、浅原委員*、伊藤委員*、大久保委員、
芝原委員、中野委員*、中村委員*、福家委員、藤田委員*、溝上委員*、
吉永委員*（委員 17 名中 13 名出席）
小崎特別委員*、瓜谷特別委員*
オブザーバー 伊藤(公)氏
4. 資 料：
 - 倫 152-1 前回議事録（案）
 - 倫 152-2-1 倫理委員会活動計画
 - 倫 152-2-2 倫理委員会役割分担表
 - 倫 152-3 2025 年秋の大会企画セッション概要報告
 - 倫 152-4 2025 年度倫理研究会の企画案
 - 倫 152-5 2026 年春の年会企画セッションに係る企画・準備について
（前回資料）
 - 倫 151-7-1-1 標準委員会倫理教育資料
 - 倫 151-7-1-2 標準委員会倫理教育において寄せられたご意見、ご質問
5. 議事概要：
 - (1) 前回議事録について
神谷幹事から資料 152-1 に基づき説明があり、特にコメントはなく、了承された。
 - (2) 活動計画および役割分担について
沖田副委員長から資料 152-2-1 および 152-2-2 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。
 - ・佐藤委員が今回欠席なので、次回にミニ講演会をお願いすることとしている。
 - ・ミニ講演会に関して、理事委員および特別委員の倫理委員会の担当期間は 1 年ないし 2 年なので、優先して担当していただけるよう、再度担当時期の見直し・調整を進めることとした。
 - ・技術倫理協議会の予実績の追加情報：第 138 回 9/29、第 139 回 10/27
 - (3) 2025 年秋の大会企画セッションの結果概要（主担当：出町委員、副担当：大久保委員）
大久保委員から、資料 151-2-3 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。
 - ・工場勤務で核セキュリティの現場からは遠いが、今回の企画セッションで、重要な点や苦労していること、安全と核セキュリティが似ているようで似ていないところがあることが理解できた。特に、核セキュリティは、情報共有の難しさがあることがよく分かり、そのことを踏まえ

たコミュニケーションの重要性を理解できた。

- ・次の倫理規程改定で核セキュリティをどのように扱っていくかに関して、非常に参考になるものだった。
- ・事業者からの講演者は、通常はベテランの方になるのだが、今回は若手の方で、講演の内容も姿勢も充実しており、感銘を受けた。
- ・国内の原子力発電所を視察した際に、発電所への入構に何列もの車の渋滞ができていて、入構に非常に時間を要し、非効率になっていると実感した。今後の新設炉では、このようなことに対して、設計段階からの考慮の必要性を感じた。
- ・入構時に大行列ができること自体が抑止力につながっている。また、米国では警備員が銃を携帯しており、本当に撃たれるのではないかとの緊張感を感じたことがある。
- ・総合討論は、いきなり単に質疑に入るのではなく、論点を提示して討論に入った方がよいと考える。今回の総合討論では、核セキュリティの現場を知っている参加者からの質疑があったので、結果的に現場の苦勞も含めて有意義な議論ができたと思う。
- ・総合討論のやり方としては、これまでも倫理委員会では論点を提示したり、指定討論者をあらかじめ指定しておくなど、実績はある。討論のシナリオを用意しておくやり方もあり得る。また、まずは座長と講演者で議論を深めていくというやり方もある。
- ・結果概要の倫理委員会 HP への掲載に向けて、結果概要の講演者のレビュー、講演資料の HP 掲載の可否について、2 週間程度を目途に、担当の方で進めていく。

(4) 2025 年度倫理研究会について（主担当：芝原委員、副担当：中野委員）

芝原委員から、資料 152-4 に基づき、前回から更新した企画案について説明があった。主な議論は以下のとおりで、今回提案のあった案を基本として、実施に向けて準備していくこととした。主な議論等は以下のとおり。

- ・内容案：メーカーの方を中心に構成されている品質保証研究会による品質コンプライアンス案件の未然防止に係る検討成果を題材として、加えて、電機工業会の品質保証特別委員会の参加も得て、倫理委員会とともに、不正を発生させない抑止策、追加の視点、有効な施策等について議論する。
- ・電機工業会との調整はこれからである。
- ・オープンな企画ではないが、他の学協会とのコラボの企画であり、有意義なものになると考えられる。
- ・倫理委員会からも倫理規程等についてショートプレゼンを行い、26 項目の抑止策と倫理規程の関係を考えることもできるのではないか。
- ・抑止策を事前によく吟味して、どのような普遍性があるのか検討しておく必要があるのではないか。
- ・研究会のアウトプットとして、たとえば倫理規程との関係も含めた普遍性、お互いに足りていること、足りていないことを学び合えばよいのではないか。
- ・場所については貸し会議室を借りてもよいし、対面での実施がよい。
- ・年内の実施に向けて、品質保証研究会側で候補日を幾つか挙げてもらって、倫理委員会側と調整を進めていくこととする。

- ・研究会の実施結果は、学会誌に投稿できるとよい。

(5) 2026年春の年会企画セッションについて（主担当：大久保委員、副担当：藤田委員）

大久保委員から、資料 152-5 に基づき説明があった。主な議論は以下のとおりで、これを踏まえて、1 F 事故から 15 年という節目を意識した企画となるよう再検討することとした。

- ・前回委員会から見直し、テーマ案を「企業不祥事に与える組織文化の影響と実践すべき倫理的行動とは」とした。倫理研究会との連続的な企画としても意識していて、研究会が仕組みに重きをおいているのに対して、組織文化に重きをおくイメージ。具体的な講師などは今後の検討である。
- ・春の年会は 1 F 事故からちょうど 15 年に当たり、学会としても特集が組まれる時期となる。倫理委員会の企画セッションも 1 F 事故から 15 年を意識して、組織文化が変わったこと、変わっていないこと等について議論するのがよいのではないか。
- ・危機に備えるという着目点も重要。
- ・1 F 事故から 15 年という節目に、倫理委員会としての振り返りも含めて大場委員長から 20 分程度の講演をしていただき、あわせて、春の年会が熊本であること踏まえて近隣の原子力発電所の取組みを事業者にお願ひし、総合討論に繋げるのがよいのではないか。
- ・総合討論のやり方としては、委員会内の関係者を指定討論者として進めるやり方もある。

(6) その他

- ・前回積み残しとなった 6 月 4 日に実施された標準委員会に対する倫理教育の場に出されたご意見等については、時間の都合で、委員会終了後に大場委員長からメールベースで状況を共有していただくこととした。

6. 次 回：別途調整することとした。

以上